

2021年度 決算説明資料



2022年5月13日

M **mitsui E&S**

三井E&Sホールディングス

■ 2021年度 決算説明	頁	■ 参考資料	頁
➤ 概要	3	➤ 設備投資・減価償却費・ 研究開発費・従業員数	18
➤ 2021年度 決算概要	4		
➤ 2021年度 経常利益 期初予想と実績の比較	5	➤ 三井E&Sグループのシェア	19
➤ 2021年度 連結貸借対照表の概要	6	➤ 舶用ディーゼル機関の状況	20
➤ 2021年度 連結キャッシュ・フローの概要	7	➤ ヒストリカルデータ	21-22
➤ 2021年度 セグメント別決算概要	8-13		
➤ 大型石炭火力発電所土木建築工事の状況	14		
■ 2022年度 見通し			
➤ 2022年度 連結業績通期見通し	15		
➤ 2022年度 セグメント別業績通期見通し	16-17		

2021年度 決算概要

◆ 受注高	5,111 億円	(前年度比 ↓)
◆ 売上高	5,794 億円	(前年度比 ↓)
◆ 経常利益	▲257 億円	(前年度比 ↓)

2022年度 見通し

◆ 受注高	2,700 億円	(2021年度実績比 ↓)
◆ 売上高	2,500 億円	(2021年度実績比 ↓)
◆ 経常利益	30 億円	(2021年度実績比 ↑)

トピック

- ◆ 2023中期経営計画を策定

(単位：億円)

	2020年度	2021年度	増減
受注高	5,767	5,111	▲656
売上高	6,447	5,794	▲653
営業利益	▲122	▲100	+22
(営業利益率)	(▲1.9%)	(▲1.7%)	
経常利益	▲82	▲257	▲175
(経常利益率)	(▲1.3%)	(▲4.4%)	
親会社株主に帰属する当期純利益	1	▲218	▲220

<期中平均為替レート>

USドル	104.49円	113.22円
------	---------	---------

■ 受注高

コンテナクレーンが堅調に推移した一方、造船事業の再編やモデックが4Qから連結対象外となった事などにより、前年度に比べて減少した。

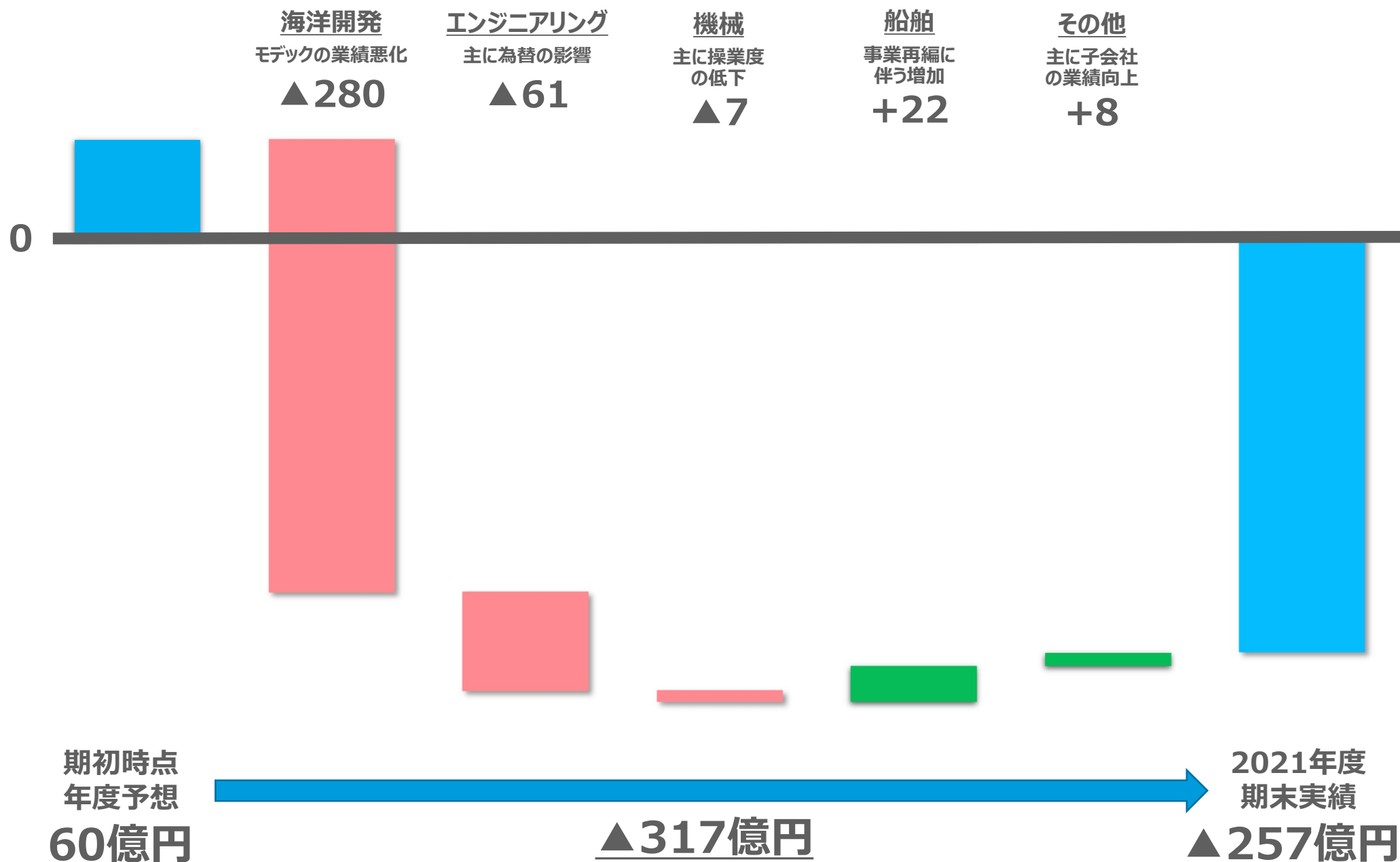
■ 売上高

機械部門に大きな変動は無いが、船舶とエンジニアリング部門は、事業再生計画の進捗に伴う事業規模の縮小により、前年度に比べて減収となった。

■ 経常利益

モデックの業績悪化に加え、エンジニアリング部門が円安進行の影響を受けた事などにより、前年度に比べ減益となった。

2021年度 経常利益 期初予想と実績の比較



2021年度 連結貸借対照表の概要

(単位：億円)

	20年度	21年度	増減	
資産合計	7,590	4,092	▲3,499	
(現金預金)	1,376	518	▲859	
(受取手形、売掛金及び契約資産)	2,340	786	▲1,554	主にモデックの連結除外による影響により減少
(有形・無形固定資産)	1,585	1,344	▲242	
負債合計	6,705	3,462	▲3,243	
(支払手形及び買掛金)	2,152	487	▲1,665	主にモデックの連結除外による影響により減少
(前受金、契約負債)	943	312	▲631	
(受注工事損失引当金)	770	596	▲174	
(有利子負債)	1,645	1,424	▲222	
純資産合計	885	629	▲255	
(自己資本)	642	571	▲71	

自己資本比率	8.5%	14.0%		
ネットD/Eレシオ	0.4倍	1.6倍		

2021年度 連結キャッシュ・フローの概要

(単位：億円)

	2020年度	2021年度	増減	
営業CF	75	▲203	▲277	売上債権の増加などによる減少
投資CF	211	▲709	▲920	主にモデックの連結除外に伴う現預金残高 控除（約600億円）による減少
フリーCF	286	▲912	▲1,198	
財務CF	▲68	8	+76	

2021年度 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	2020年度	2021年度	増減	2020年度	2021年度	増減
船舶	378	195	▲183	601	281	▲320
海洋 開発	3,208	2,707	▲501	2,908	3,233	+325
機械	1,253	1,488	+234	1,590	1,537	▲53
エンジニア リング	225	17	▲208	382	76	▲306
その他	703	704	+2	966	666	▲300
合計	5,767	5,111	▲656	6,447	5,794	▲653

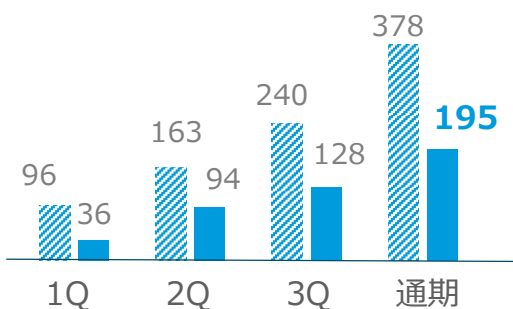
2021年度 セグメント別決算概要

(単位：億円)

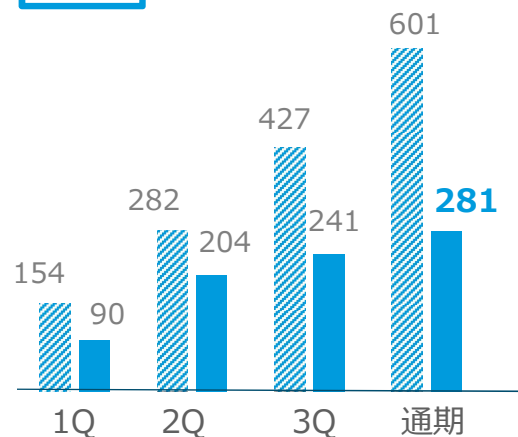
	営業利益			経常利益		
	2020年度	2021年度	増減	2020年度	2021年度	増減
船舶	▲19	▲4	+15	▲5	2	+7
海洋 開発	▲218	▲81	+137	▲150	▲220	▲70
機械	98	82	▲17	102	83	▲19
エンジニア リング	5	▲108	▲113	2	▲101	▲103
その他	12	11	0	▲31	▲22	+9
合計	▲122	▲100	+22	▲82	▲257	▲175

■ 2020年度 ■ 2021年度 (単位：億円)

受注高



売上高



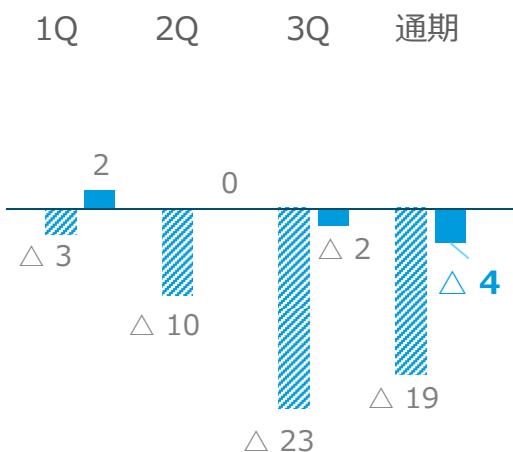
■ **受注高**：前年度比 ▲183億円

三井E&S造船が船舶建造事業から撤退し、今年度下期から商船エンジニアリングを中心とした事業に特化した事により、前年度に比べて減少した。

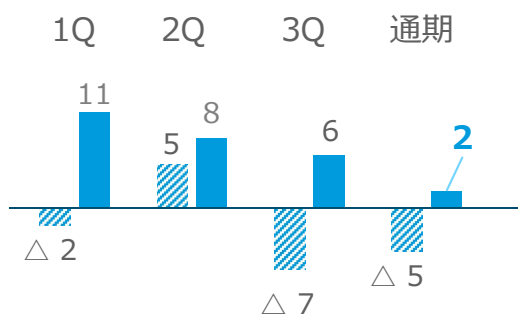
■ **売上高**：前年度比 ▲320億円

造船事業の再編（艦艇事業等の譲渡／ファブレス化）が進捗した事に伴う、船舶建造工事量の減少により、前年度に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



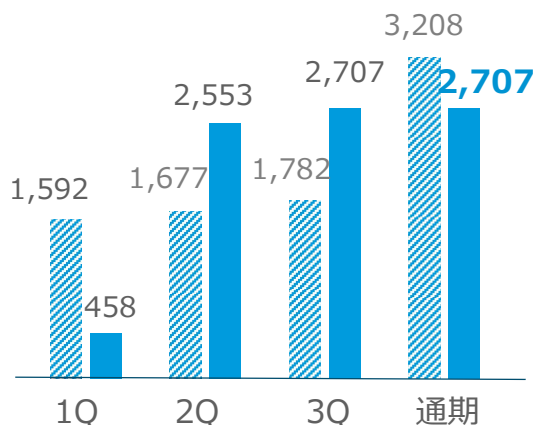
■ **経常利益**：前年度比 +7億円

商船エンジニアリング事業に注力した事により、収益に改善の兆しが見られ、前年度に比べて増益となった。

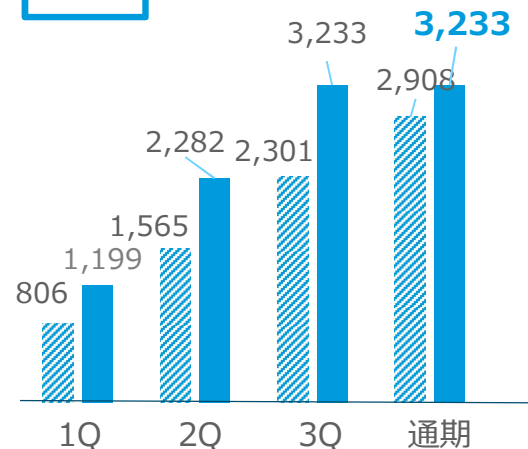
■ 2020年度 ■ 2021年度

(単位：億円)

受注高



売上高



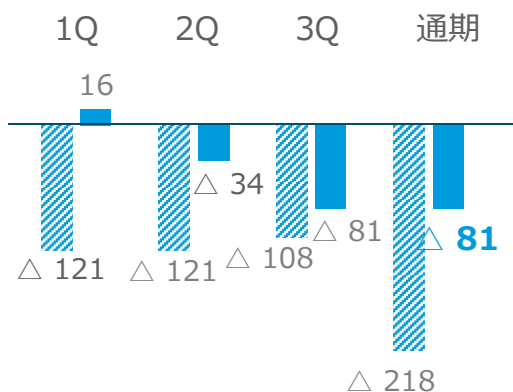
■ 受注高：前年度比 ▲501億円

FPSO建造工事の正式な契約発効があったが、モデックが4Qより連結子会社から除外された影響などにより、前年度に比べて減少した。

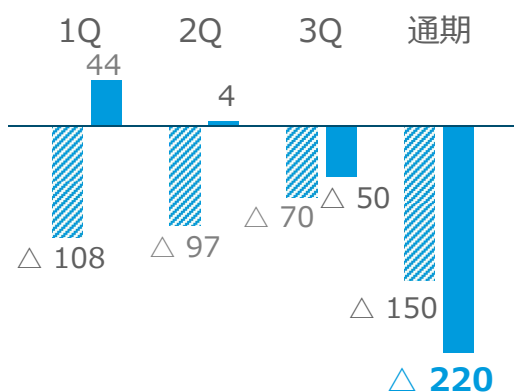
■ 売上高：前年度比 +325億円

受注高と同様にモデックの連結除外による影響があったものの、FPSO建造工事の進捗により、前年度に比べて増収となった。

営業利益



経常利益



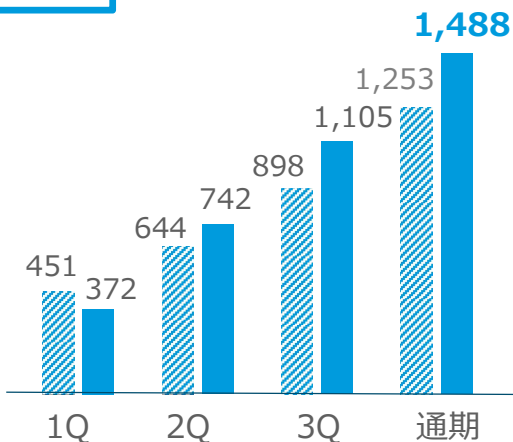
■ 経常利益：前年度比 ▲70億円

モデックが、ブラジル旧船O&M修繕費やFPSO建造工事の追加費用に対する引当金を計上した事などにより、前年度に比べて減益となった。

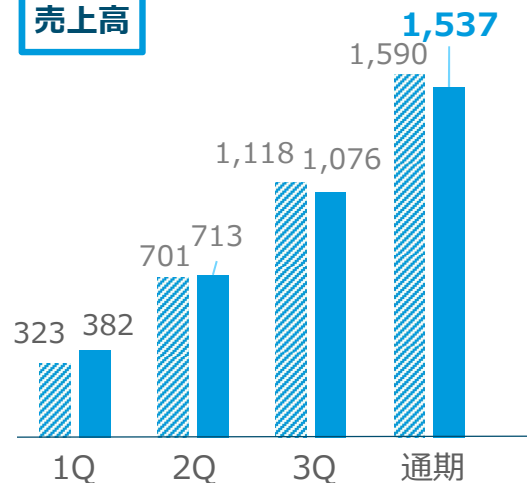
■ 2020年度 ■ 2021年度

(単位：億円)

受注高



売上高



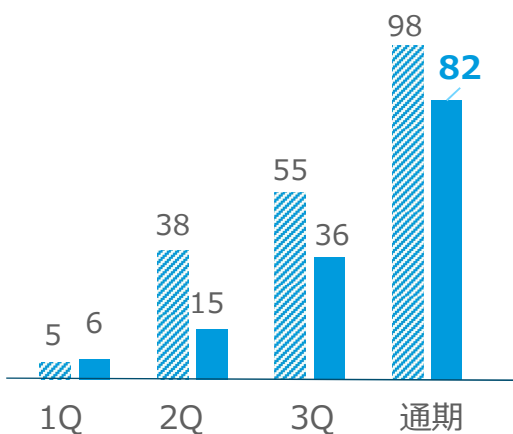
■ 受注高：前年度比 +234億円

北米やアジアにおけるコンテナ荷動きの活発化によりコンテナクレーンの需要が回復し、前年度に比べて増加した。

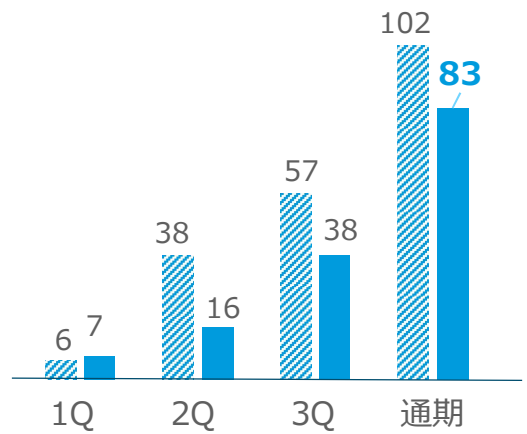
■ 売上高：前年度比 ▲53億円

主に船用ディーゼル機関の工事量が減少した事により、前年度に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



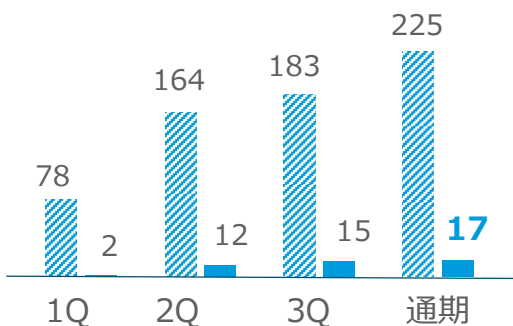
■ 経常利益：前年度比 ▲19億円

アフターサービス事業が堅調に推移するなか、船用ディーゼル機関の操業度が低下した事などにより、前年度に比べて減益となった。

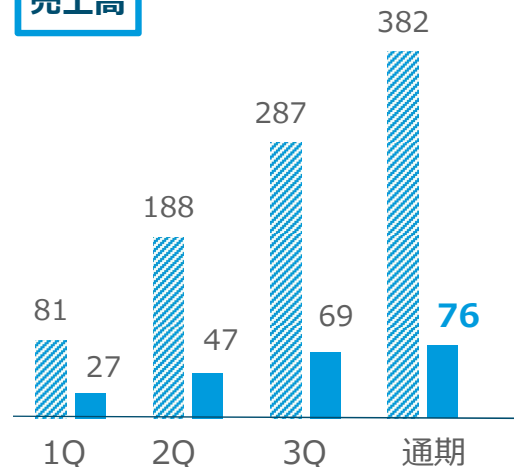
2020年度 2021年度

(単位：億円)

受注高



売上高



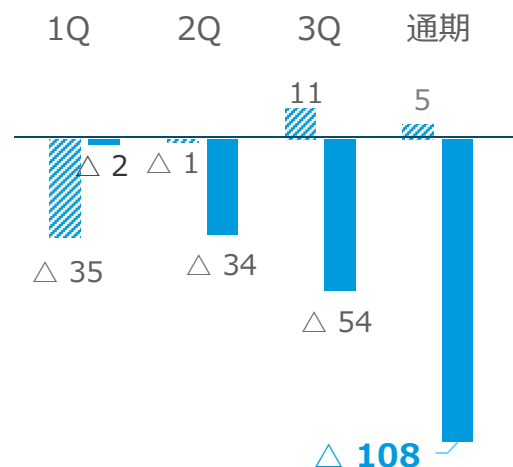
■ 受注高：前年度比 ▲208億円

期初に三井E&S環境エンジニアリングを売却した事に加え、現在は新規案件の受注活動を行っておらず、既存工事の追加作業などの計上だけとなり、前年度に比べて減少した。

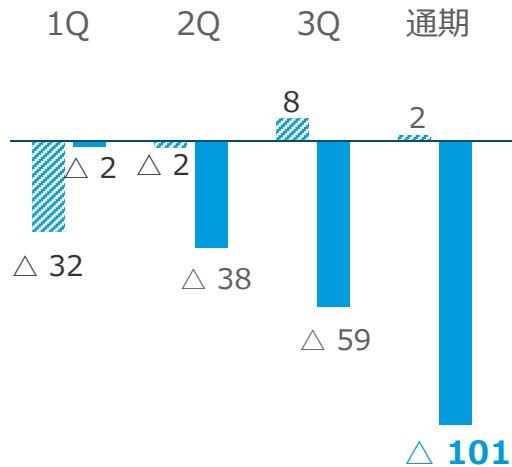
■ 売上高：前年度比 ▲306億円

三井E&S環境エンジニアリングの売却に加え、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、一時的に工事進捗率が低下したため、前年度に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



■ 経常利益：前年度比 ▲103億円

外国為替相場における円安の進行を受け、売上原価が増加した事などにより、前年度に比べて大幅に悪化した。

プロジェクト	地域	工事進捗率	
		2018年度末 (事業再生計画スタート時)	2021年度末
1	インドネシア	約67%	約90%
	引当金残高	514億円	584億円
2	インドネシア	約71%	約100%
3	ベトナム	約98%	完工

<各プロジェクトの進捗状況>

- 1 19年度2Qに追加損失を計上した際の引当金の範囲内で推移（為替の影響を除く）
- 2 一部残工事のみ対応中
- 3 2020年7月に完工、引き渡し済み

発電土木プロジェクトのうち、3件中2件は、ほぼ完工を迎えており、リスクは減少

(単位：億円)

	21年度 実績	22年度 見通し	増減
受注高	5,111	2,700	▲2,411
売上高	5,794	2,500	▲3,294
営業利益	▲100	50	+150
経常利益	▲257	30	+287
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲218	20	+238
フリーCF	▲912	▲500	+412
有利子負債	1,424	1,750	+326

※ 前提為替レート US\$ = 125円

※ US\$ 1円の円高が営業利益に与える影響 ⇒ 約 2 億円の改善

2022年度 セグメント別業績通期見通し

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	21年度実績	22年度見通し	増減	21年度実績	22年度見通し	増減
船舶	195	100	▲95	281	100	▲181
海洋開発	2,707	—	▲2,707	3,233	—	▲3,233
機械	1,488	2,000	+512	1,537	1,700	+163
エンジニアリング	17	0	▲17	76	200	+124
その他	704	600	▲104	666	500	▲166
合計	5,111	2,700	▲2,411	5,794	2,500	▲3,294

2022年度 セグメント別業績通期見通し

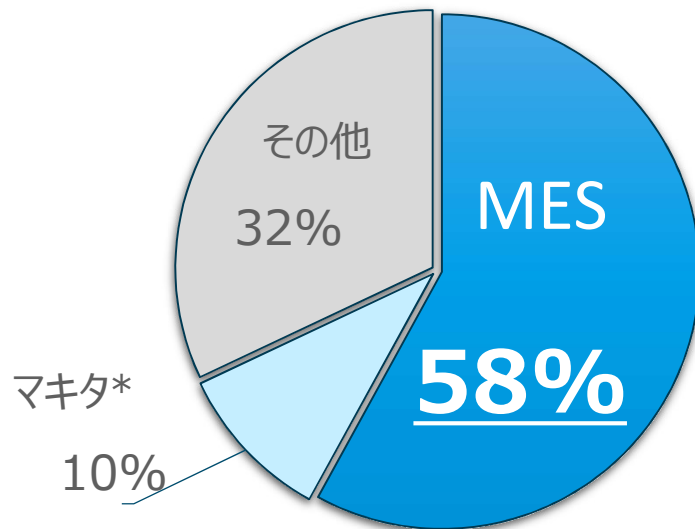
(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	21年度実績	22年度見通し	増減	21年度実績	22年度見通し	増減
船舶	▲4	▲10	▲6	2	▲10	▲12
海洋開発	▲81	—	+81	▲220	10	+230
機械	82	80	▲2	83	80	▲3
エンジニアリング	▲108	▲30	+78	▲101	▲40	+61
その他	11	10	▲1	▲22	▲10	+12
合計	▲100	50	+150	▲257	30	+287

(単位：億円)

	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 見通し
設備投資	127	90	103
減価償却費	127	106	—
研究開発費	34	21	30
連結従業員数	12,703人	6,665人	—

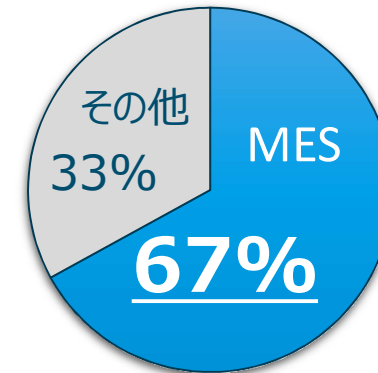
2021年1月～12月 船用ディーゼル機関 国内シェア



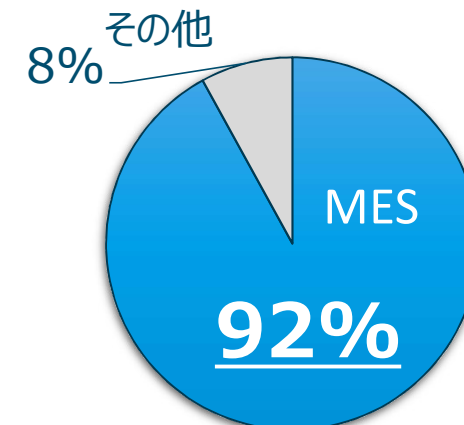
* (株)マキタは当社サブライセンシー

Source: KPデータ (2ストローク機関)

2021年度 ガントリークレーン (ポーターナ®) 国内シェア



2021年度 ヤードクレーン (トランステーナ®) 国内シェア



船用ディーゼル機関 (三井E&Sマシナリー)

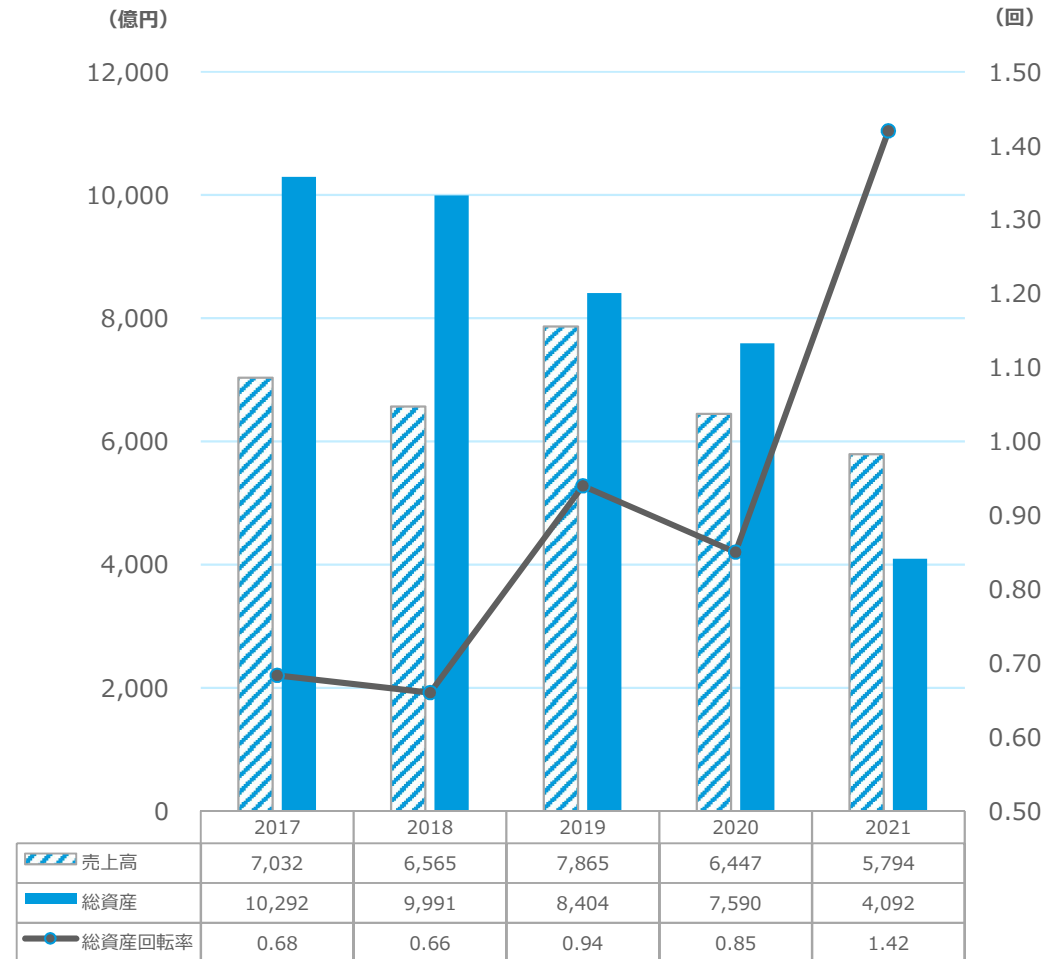
	2020年度		2021年度		2022年度予想	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	119	208	73	196	—	—
売上高	148	331	120	274	—	—
受注残高	68	121	21	43	—	—
生産実績	152	357	122	267	135	300

<受注高・売上高・経常利益の推移>



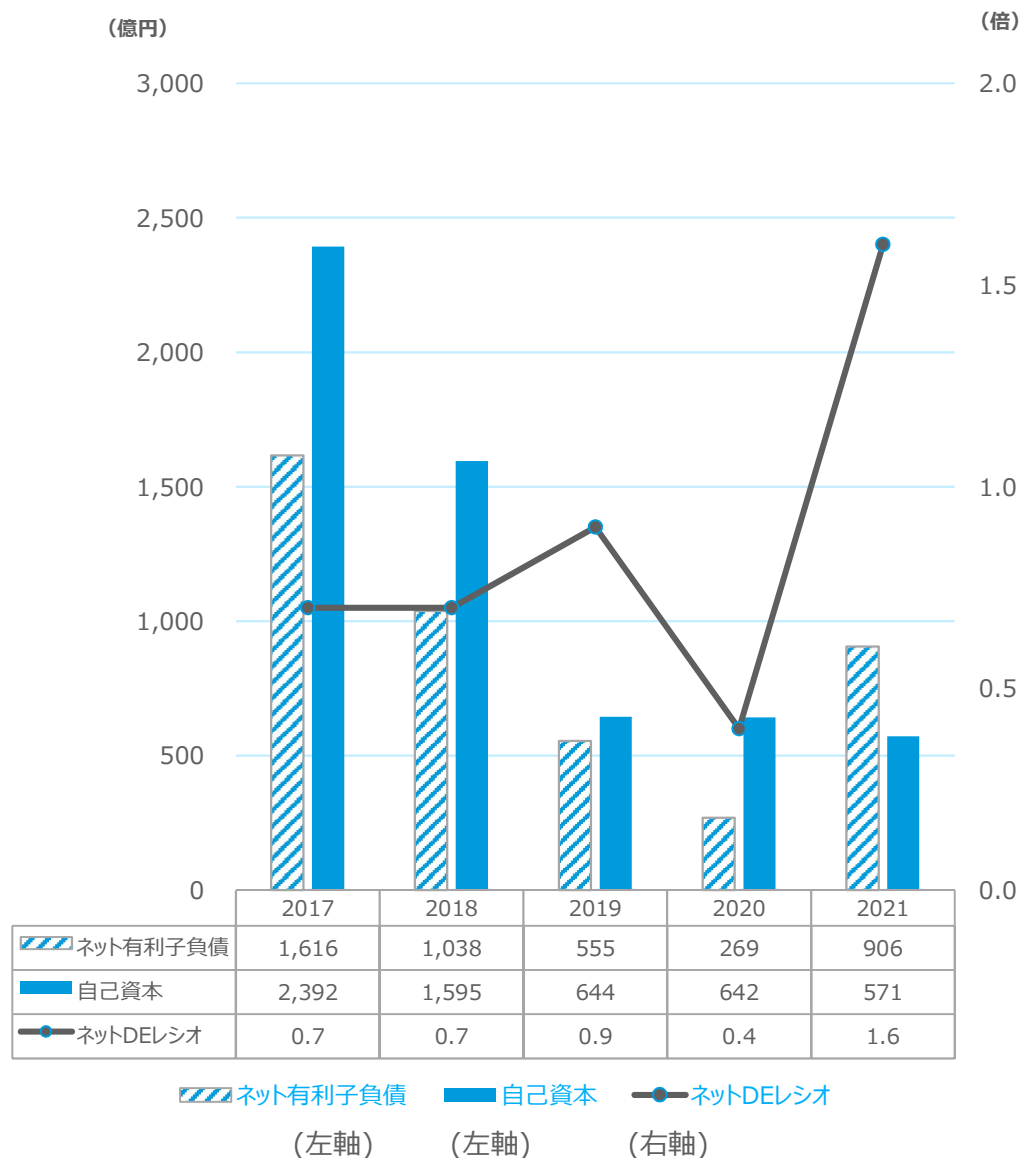
▨ 受注高 (左軸)
 ■ 売上高 (左軸)
 ● 経常利益 (右軸)

<売上高・総資産・総資産回転率の推移>

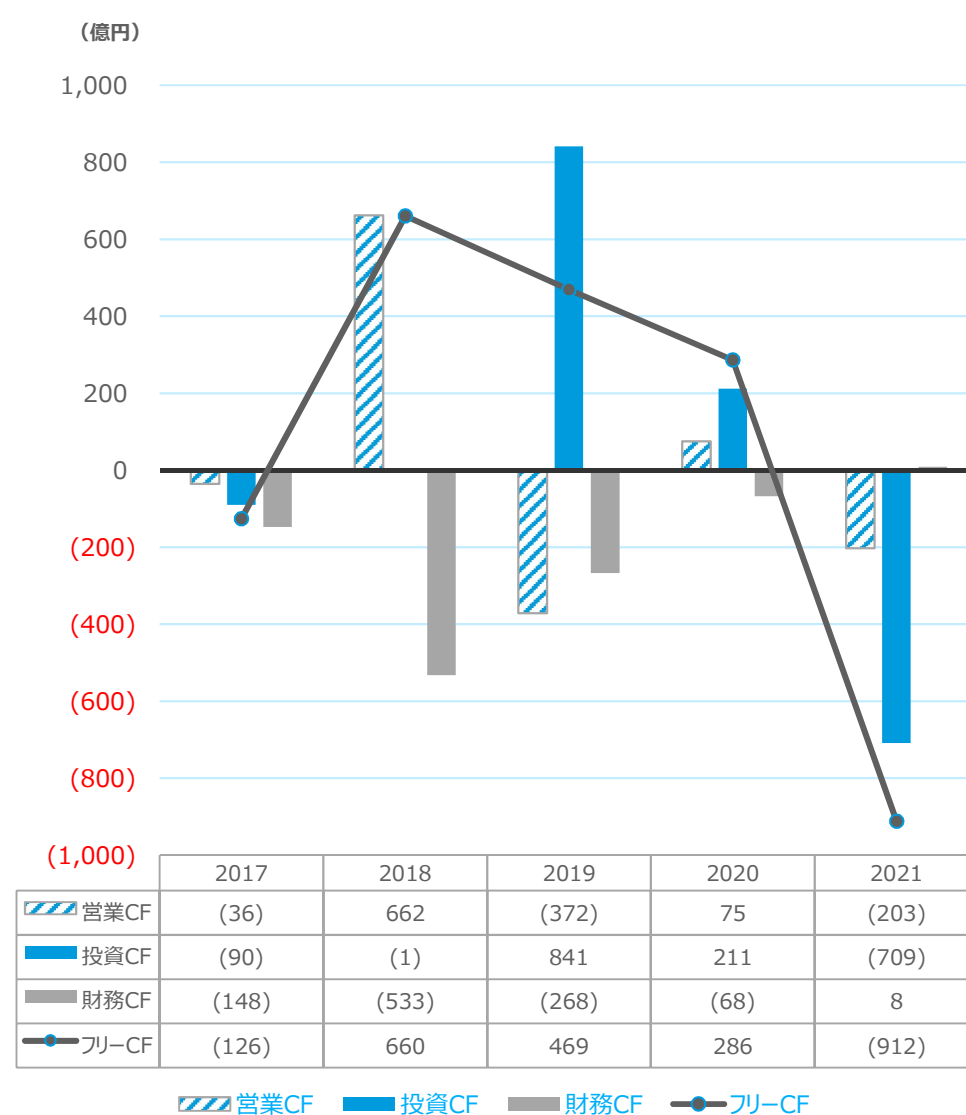


▨ 売上高 (左軸)
 ■ 総資産 (左軸)
 ● 総資産回転率 (右軸)

<ネット有利子負債・自己資本・ネットDEレシオの推移>



<キャッシュフローの推移>





MITSUMI E&S

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性があります。